

第17回(平成23年度) 「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

ミツカン水の文化センター(事務局:東京都中央区新川1-22-15茅場町中荳ビル9F 株式会社ミツカングループ本社内)では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者1,500名を対象に、平成23年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど集計結果がまとまりました。

「水にかかわる生活意識調査」は、センター設立に先立ち、1995年に第1回目を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が17回目になります。日常生活と水とのかかわりや意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。

【調査概要】

第17回(平成23年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成23年6月9日(木)～6月14日(火)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

特別調査「福岡県民の水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 500票
- ◆調査対象者 : 福岡県に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成23年6月9日(木)～6月14日(火)
- ◆回収数(人) :

	男性	女性
20代	50	50
30代	50	50
40代	50	50
50代	50	50
60代	50	50
合計	250	250
	500	

《結果の抜粋と掲載ページ》

◆調査概要	1ページ
■水道水の評価とイメージ／東京・大阪・中京圏+福岡県	
◇水道水の評価は10点満点中7.45点	3ページ
◇3エリアで最も評価が高いのは、中京圏の7.73点 ・福岡県は、7.25点	3ページ
◇水道水への不満、「なし」が1位、不満のトップは「料金が高い」	3ページ
◇約7割が居住地の水に関して誇れることなし	4ページ
◇水に関して誇れるものの2位に「水道」	4ページ
◇のどの渴きを癒すとき、過半数が「水のありがたさを感じる」 ・福岡県の1位は「給水制限」のときで6割強	4ページ
■水と災害／東京・大阪・中京圏+福岡県	
◇災害時の水の備え1位は「ミネラルウォーターの買い置き」、2位は「何もしていない」	5ページ
◇不安を感じる水の災害は、台風・水不足・断水	5ページ
◇「津波」の数値が昨年比6.2ポイント上昇で13.7%	5ページ
■日常の水意識／東京・大阪・中京圏+福岡県	
◇過半数は節水を意識	6ページ
◇20代男性の約3割は、「気にせず使っている」	6ページ
◇女性の約8割強が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」	6ページ
◇「水の都」のイメージ都市、1位は「大阪」	7ページ
■里川について	
◇認知率は合計36.6%、うち7.7%が「言葉の意味まで知っている」	7ページ
◇「生き物がたくさん棲んでいる」「清らかな水が流れる」川が「里川」のイメージ	7ページ

参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、酢の醸造を社業の中心としてきました。酢の製造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

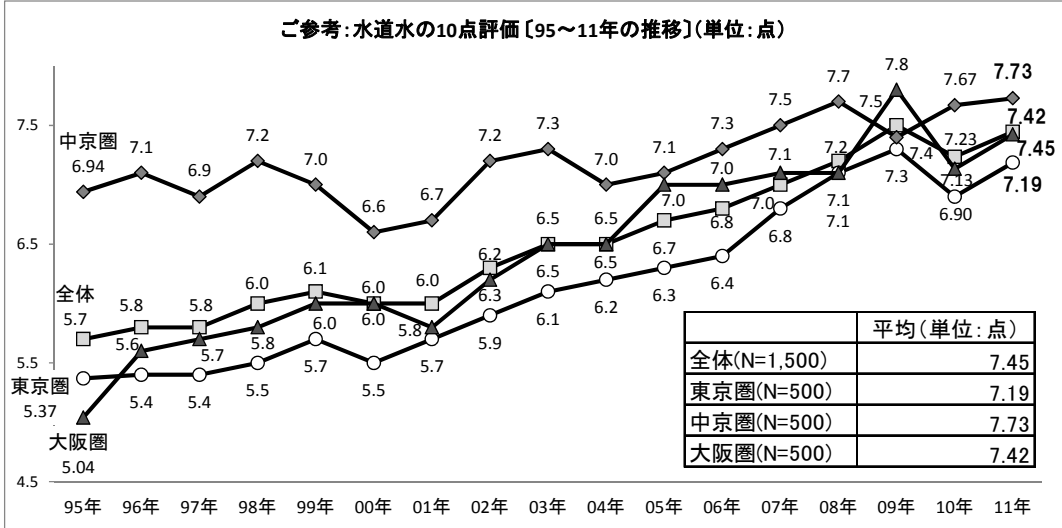
1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、市民参加型の実践的研究活動「水の文化楽習」、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、イベント「ミツカン水の文化交流フォーラム」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。

水道水の評価とイメージ／東京・大阪・中京圏＋福岡県

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

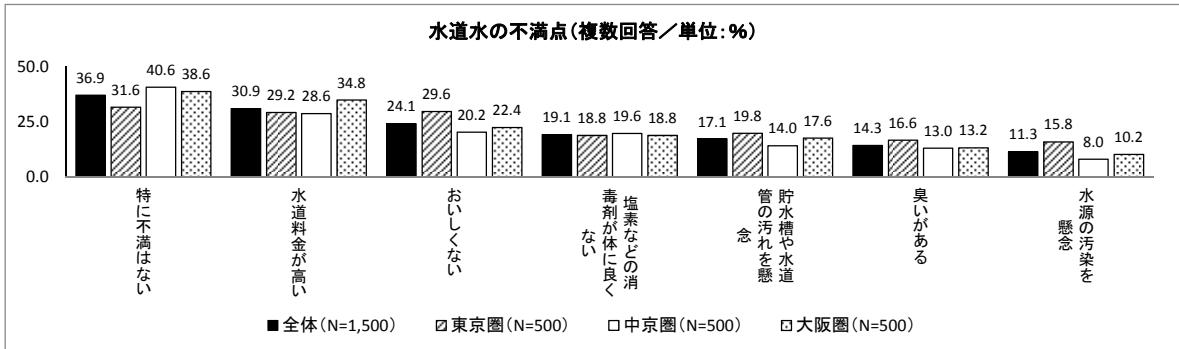
- ◇全体の平均は7.45点
- ◇3エリアで最も評価が高いのは中京圏、7.73点



* ご参考までに2009年までのデータを入れ込み、推移グラフとしました。
 対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2011年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)
 有効回答数：1995～2009年…467～554、2010～2011年…1,500

Q.水道水について不満を感じていることは？

- ◇1位は「特に不満はない」
- ◇不満のトップは「料金が高い」

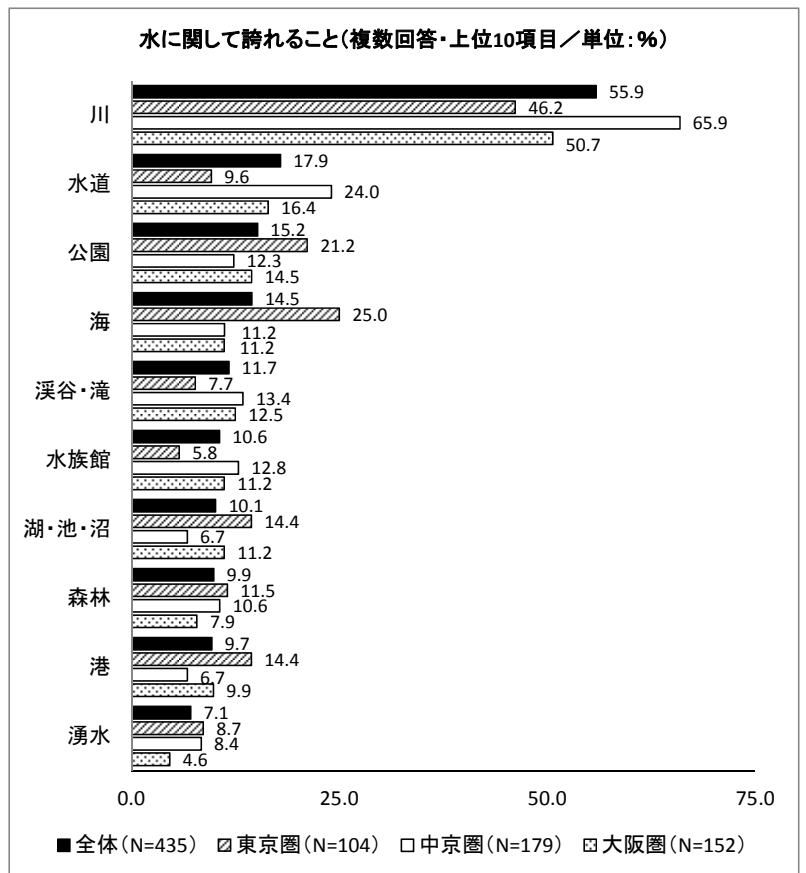
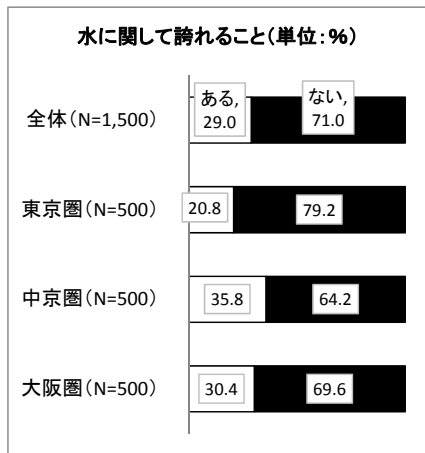


Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

Q.水に関して誇れることは何ですか？

◇約7割が「誇れることはない」

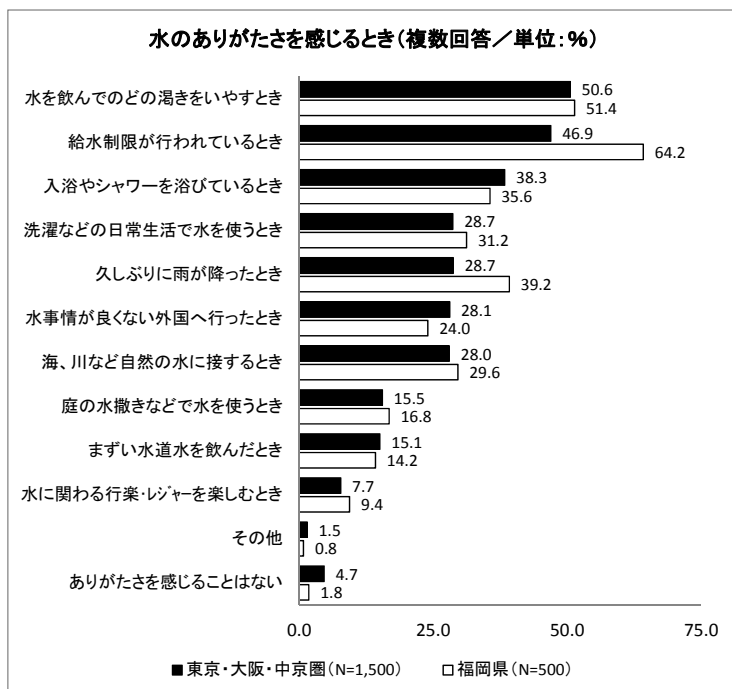
◇水に関して誇れるものの2位に「水道」



Q.水のありがたさを感じるときは？

◇1位は「のどの渇きをいやすとき」

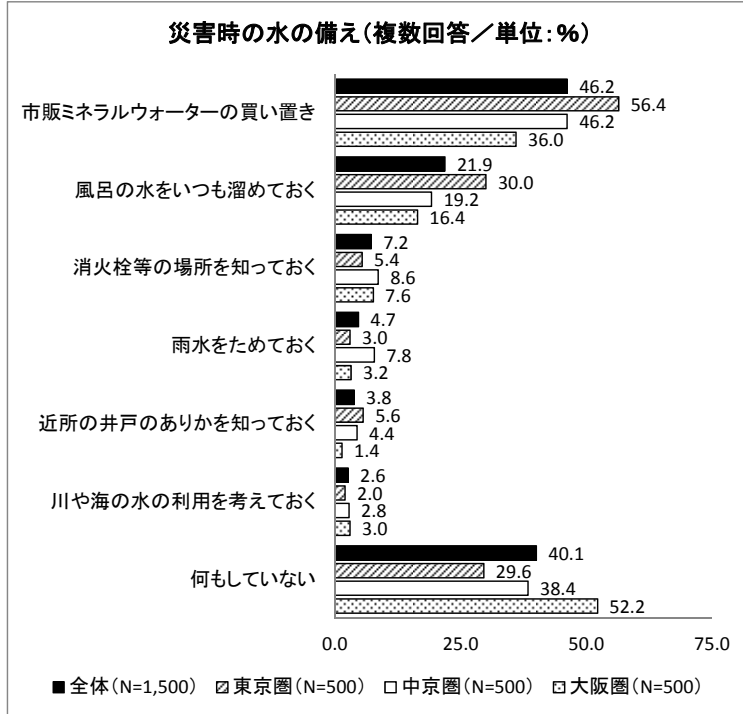
◇福岡県1位は「給水制限のとき」



水と災害／東京・大阪・中京圏＋福岡県

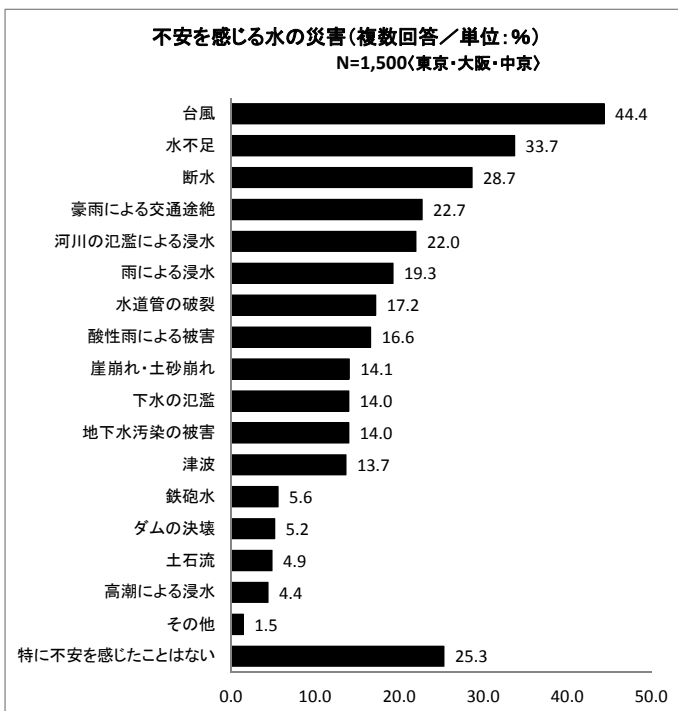
Q.緊急時用の水の備えは？

- ◇1位はミネラルウォーターの買い置き
- ◇2位は「何もしていない」



Q.不安を感じる水の災害は？ (16択+その他+特に不安を感じたことはない)

- ◇不安を感じる水の災害は、台風・水不足・断水
- ◇「津波」の数値が昨年比6.2ポイント上昇で13.7%



不安を感じる水の災害トップ5(複数回答/単位:%)

	東京圏(N=500)	中京圏(N=500)	大阪圏(N=500)	福岡県(N=500)
1位	台風 38.8	台風 53.4	台風 41.0	台風 56.0
2位	水不足 35.0	水不足 35.2	特に不安を感じたことはない 31.2	水不足 51.6
3位	断水 34.0	豪雨による交通途絶 29.2	水不足 31.0	断水 34.4
4位	特に不安を感じたことはない 26.0	河川の氾濫による浸水 28.4	断水 24.8	河川の氾濫による浸水 34.4
5位	豪雨による交通途絶 21.8	断水 27.2	河川の氾濫による浸水 21.8	豪雨による交通途絶 29.0

※福岡のみ「断水」「河川の氾濫による浸水」が同率3位

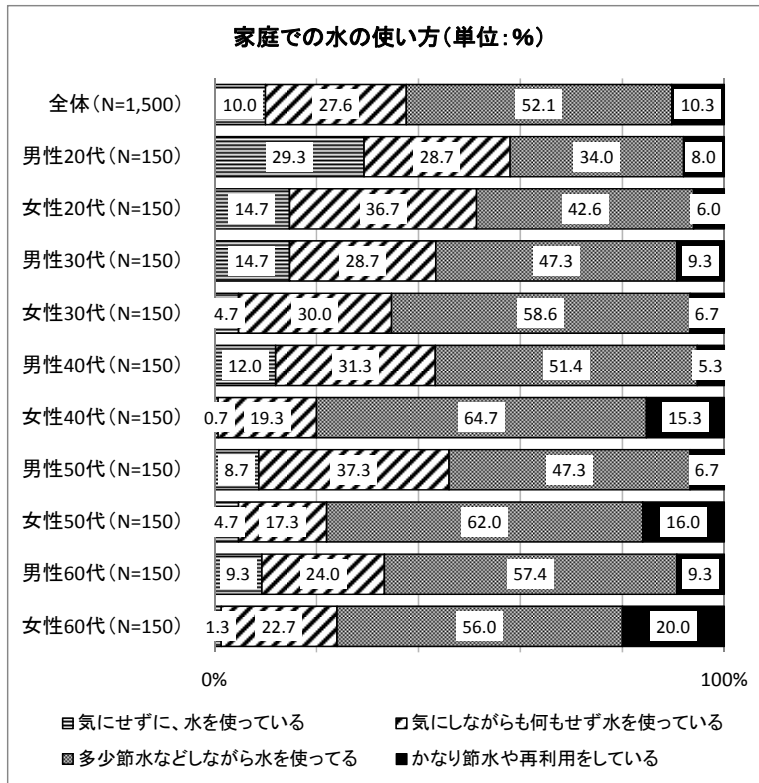
各エリアの「津波」の順位と数値(単位:%)

	東京圏(N=500)	中京圏(N=500)	大阪圏(N=500)	福岡県(N=500)
順位	13位	9位	12位	13位
数値(%)	11.6	16.2	13.2	11.8

Q.水の使い方は？

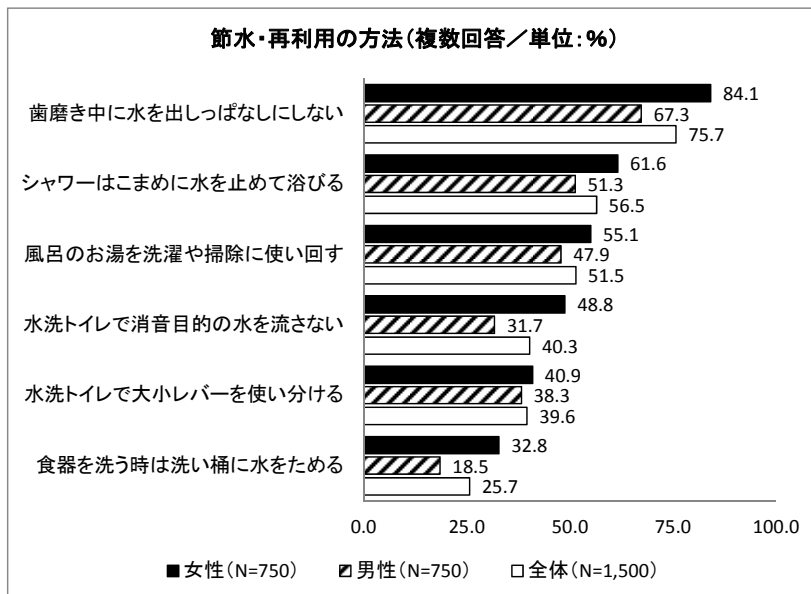
◇過半数は節水を意識

◇節水意識が一番低いのは20代男性



Q.節水・再利用の方法は？

◇女性の8割強が「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」



Q.「水の都」のイメージに最も近いのは？（自由回答）

◇大阪、福岡ではそれぞれの地元「大阪」「柳川」が1位。東京、中京は「なし・思い浮かばない」

「水の都」イメージトップ3（自由回答／単位：％）

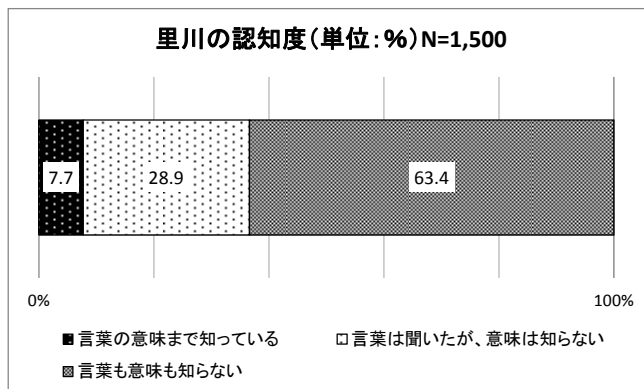
	東京圏(N=500)	中京圏(N=500)	大阪圏(N=500)	福岡県(N=500)
1位	なし・思い浮かばない 22.8	なし・思い浮かばない 20.4	大阪 55.6	柳川 20.2
2位	大阪 6.2	大垣 19.6	なし・思い浮かばない 12.8	なし・思い浮かばない 16.0
3位	京都／柳川 4.6	大阪 8.8	滋賀 5.0	熊本 13.0

※東京圏の「京都」「柳川」は同率3位

里川について

Q.「里川（さとがわ）」について知っているか？

◇認知率は、36.6%、うち7.7%が「言葉の意味まで知っている」



Q.「里川」のイメージは？

◇「生き物がたくさん棲んでいる」「清らかな水が流れる」川が里川のイメージ

